

1. 音楽科における未来そうぞう

(1) めざす子ども像

「未来そうぞう」において、学習過程は想像と創造を往還しながら高まっていくものとしている。音楽科においてはこれまで「子どもと対象との相互作用によって対象も子どもの感じ方も変化する」という「生成の原理」をもとに研究を積み重ねてきており、そこでは、音楽的思考力¹が働く過程-子どもが自らの内なる考えやイメージをもとに対象に働きかけて試してみればその結果を受け止め、新たに考えやイメージをつくりかえていくという過程-を大切にしてきた。これは「未来そうぞう」の学習過程と共通しているといえる。よって、「音楽科における未来そうぞう」としてめざす子ども像を「音楽的思考力を発揮し、創造的に〈表現〉²する子ども」と設定することとした。そこで、音楽的思考力を育成する授業デザインについて提案すると同時に、その中で「未来そうぞう」の3つの実践力がどのようにかわり、それらをどのようにして育むことができるのかを考えていきたい。

(2) 3つの実践力との関連

主体的実践力	現状把握力	音や音楽に働きかけ、知覚・感受する力
	持続的行動力	自ら音や音楽にかかわっていこうとする力
協働的実践力	洞察力	他者とのかかわりの中で、自分たちの演奏についてふりかえる力
	コミュニケーション力	音楽活動に関する目的を共有し、その実現に向けて他者とかかわる力
創造的実践力	適応力	他者とのかかわりの中で、それぞれのイメージをすり合わせる力
	発想力	自らのイメージを表すための新たな考えやよりよい方法を思いつく力
	表現力	音・言語・身体・絵・図・記号などを用いて知覚・感受したことを伝える力
	活用力	自らのイメージを表すために発想したことを関連づける力

2. 音楽科における授業づくり³

音楽的思考は〈表現〉の過程と同義で、対象となる音や音楽と出合い、それらを知覚・感受するところから始まり、そのときにもったイメージを表すために試行錯誤を繰り返していく一連の過程である。この音楽的思考を実現させるため、単元構成は「経験-分析-再経験-評価」の形をとる。

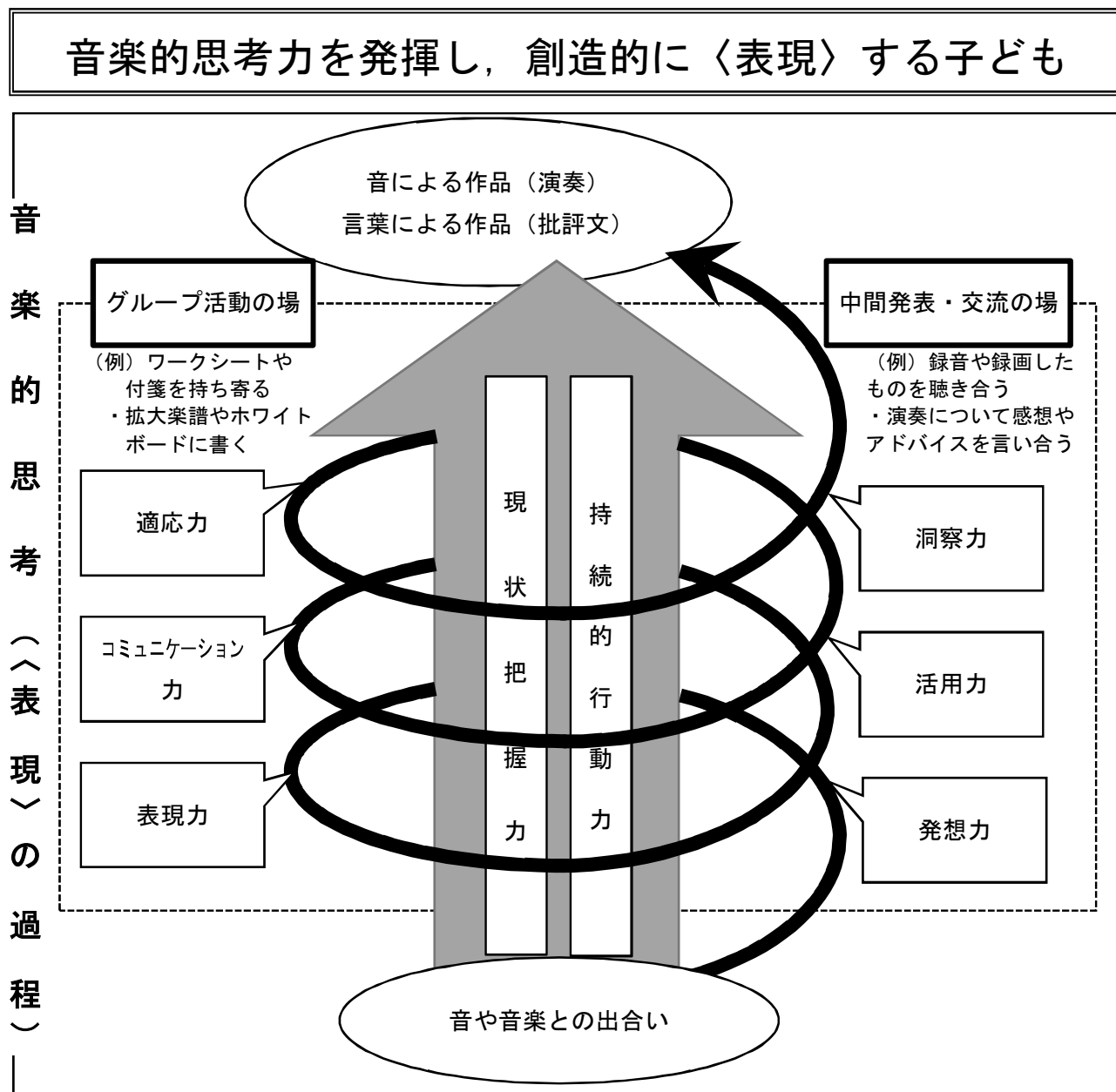
次に、音楽的思考の中で働く「未来そうぞう」の資質・能力について考える。音楽的思考の軸となるのは「現状把握力」と「持続的行動力」である。そして、知覚・感受をもとにイメージしたことを表すために「発想力」を働かせ、「発想」したものを関連づけてまとまりをもたせるために「活用力」を働かせる。そこでは他者とのかかわりが重要になる。自らのイメージや考えを「表現力」を働かせて他者に伝え、同じ目的を共有しその実現に向かって「コミュニケーション力」を働かせる。グループで1つの表現を創り上げる場合は、個々人のイメージをすり合わせるという「適応力」が必要となる。また、「洞察力」を他者とのかかわりの中で働かせることができれば、音楽的思考をさらに進展させることができる。

つまり、主体的実践力を軸に、協働的実践力と創造的実践力は密接に関連しており、これらは音楽的思考には必要不可欠なものである。これらの資質・能力を育成するため、「発想」したことを「表現」や「活用」し、「コミュニケーション」の中で「洞察」や「適応」できる環境を単元構成の中に組み入れたい。

また、本校音楽科においてはこれまで日本伝統音楽による学習について研究を積み重ねてきた。そこでは、日本伝統音楽による学習は子ども自身の生活経験が活かされ、創造的な〈表現〉に有効であるという示唆を得ることができた。また、日本伝統音楽の学習では、子どもたちが潜在的にもっている日本

人的な感覚が呼び覚まされるため、子どもが自分の中にある日本的な感覚に気づき自分を知っていくということにもつながる。つまり、日本伝統音楽の学習は、音楽科の学力だけでなく文化的なアイデンティティも育むことができるものである。これは、未来そうぞうが掲げている ESD にもつながると考えられる。このことから、今年度提案したいと考えている音楽的思考力を育成する授業デザインにおいても日本伝統音楽を扱っていくこととする。

3. 音楽科の全体構想図



注

- 1 音楽的思考力…音や音楽について知覚・感受し、自らのイメージをどのように表現するかという行為を選択していく思考力のこと。
- 2 〈表現〉とは、創造的実践力における表現力の「表現」とは意味が異なるため、区別して〈表現〉と記す。また、本論における〈表現〉は、「生成の原理」に基づく表現のことをいい、活動を通して子どもの内側と外側に二重の変化をもたらす営みのこととする。
- 3 音楽科においては「授業づくり」ではなく、「授業デザイン」として行う。

<参考・引用文献>

- ・小島律子編著 (2015)『音楽科 授業の理論と実践』あいり出版
- ・関西音楽教育実践学研究会 (2016)「育成すべき能力を発揮する姿」平成 27 年度特別企画資料